

ピースウィンズ・ショップから

PWJオリジナルカレンダー、 チョコレートの販売を開始しました！

今年も残すところあとわずかですね。毎年好評をいただいているPWJオリジナルカレンダー「Smiles of The World」が完成いたしました！大地震の緊急支援を行ったネパールやこれから支援を開始するパレスチナ・ガザなどでスタッフが撮影した写真で構成しており、世界中から届いたステキな笑顔に元気づけられます。ご自宅、職場、ギフトにぜひご利用ください。

また、秋冬限定販売商品である、東ティモールピースコーヒーの豆が乗ったコーヒービーンズチョコレート、新たに加わったレーズン＆カシューなッ味を始めとするピープルツリーのフェアトレードチョコレートの販売も開始しております。



支援地レポート

ネパール

2015年4月に発生した大地震から半年以上が経ちました。PWJは災害発生直後の緊急支援後も、被災者の住宅の修復や再建の支援を続けています。現地では雨期が終わり、人々が崩壊した家を建て直す時期に来ています。できるだけ地震に強い家を建てられるよう、PWJは耐震構造の技術研修を実施し、今後もネパールの復興支援を継続します。



スリランカ



10月中旬、2014年から支援している農家の協同組合のメンバーに伝統米の種子を配布しました。トリンコマレ県ではかつて化学肥料が大量に使用され、健康被害が出た地域もありますが、伝統米は有機栽培のため環境に優しい上、栄養価も高く、今後さらに市場価値が高まりそうです。来年2月の収穫まで、組合理事と連携して栽培状況を見守ります。

モンゴル

PWJは、モンゴルで貧困や家庭の事情のために保護者のもとで暮らすことができない子どもたちを、現地の児童保護施設「ベルビスト・ケアセンター」(VCC)を通じてサポートしています。9月、VCCがモンゴルでの活動を開始して20年を迎えたことを記念してイベントが開催され、子どもたちが一生懸命練習してきた歌や踊りをステージで披露しました。



ピースウィンズ・ニュース

THE PEACE WINDS ORGANISATION
Together For Better Health

peace winds
JAPAN

JAPAN
PLATFORM

peace winds
JAPAN

支援のプロを、
世界の現場へ



命を守るトイレを 子どもたちに

—南スーダン国内避難民・衛生支援—

「学校にトイレができた！自分たち専用のきれいなトイレだ！」。清潔感のある青色に塗られた真新しい建物にピンクのリボンがかけられ、在南スーダン日本大使らがテープカットを行うと、子どもたちが歓声をあげながら一斉に駆け寄っていった。

2015年10月6日、南スーダンの首都ジュバ。グンボ国内避難民キャンプに隣接する学校でピースウィンズ・ジャパン(PWJ)が建設したトイレが完成し、PWJから学校側へ引き渡す式典が行われた。子どもたちが歌や踊りを披露し、日本大使と自衛隊PKO部隊も祝福に駆け付けた。子どもたちはトイレの扉を次々と開けては中を覗き込み、式典に参加した教諭や地域の大人たち、PWJの現地スタッフもにこやかにその様子を見守っていた。

長きにわたる内紛でスーダンが二分し、2011年にできた世界一新しい国家、南スーダン共和国。独立後も反政府組織と政府軍の衝突が後を絶たず、和平協定が結ばれては破棄され、この夏に8度目の停戦合意がなされたところだ。国内情勢が安定しないため、人びとは戦禍を逃れ、避難生活を続けている。

キャンプにたどり着き、食料や仮設住宅が提供されても、コレラなどの病気で命を落とす人は絶えない。ジュバ市内では今年、コレラが約1800件発生し、50人近くが死亡した。それは、トイレで用を足すという習慣がなく、トイレの後や食事前に石鹼で手を洗うことが感染症の予防につながるという知識も欠けているからだ。「トイレが命を守る」というと日本では大げさに聞こえるが、ここでは清潔なトイレがまさに命を守る砦となる。グンボ国内避難民キャンプでは今年、コレラを発症した人は一人もいない。



PWJが学校に建設したトイレ



現地メディアの取材を受けるPWJ現地代表・清水

避難民キャンプや学校での衛生支援



トイレの建設作業の様子

PWJは2006年から南スーダンで井戸掘削などの支援を続けてきましたが、2013年末の軍事衝突後、駐在スタッフは国外退避を余儀なくされ、隣国ケニアの首都ナイロビから遠隔指示で事業を進めています。

2014年以降は、現地NGOと連携して、ジュバ市内の国内避難民キャンプや学校の衛生支援に取り組んでおり、トイレの建設や補修、ごみ回収、衛生普及員の育成を行ってきました。2015年11月までに、PWJが建設または補修したトイレは291基に上ります。



手洗い場で石鹼を使って手を洗う子どもたち

衛生知識を歌にのせて

「私たちは毎朝早くから掃除する～♪

生活環境をきれいにするために～

私たちの子どもの命を奪う病気の感染を防ぐために～

コミュニティと子どもたちの健康のために～私たちは一生懸命働く～

キャンプに暮らす私たちに対する「THESO」と日本の人々の支援に感謝～

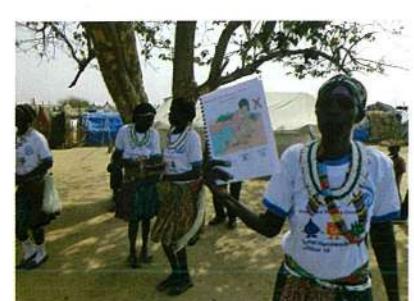
支援のお陰で今は安心して過ごせる～

故郷に帰れるように平和を祈る～

家に帰っても衛生活動を続ける～

地域と子どもたちの病気を防ぐために～♪」

これは衛生知識を普及するために作られた歌です。PWJは衛生支援の一環で、地元の人たちのために働く意志の強い人々を「衛生普及員」として育成しています。普及員はPWJスタッフから、清潔な住環境を保つための衛生知識の研修を受け、避難民キャンプ内外の人々を対象に普及活動を行います。



イラストを使って説明する普及員



歌と一緒に衛生知識を伝える普及員

現地の人々と活動し、ともに成長

南スーダン国内は現在も治安の問題から日本人の駐在が制限されているため、PWJスタッフは隣国ケニアのナイロビに拠点をおき、月に1回首都ジュバに出張し、事業を管理しています。日々の業務を進めるのは、連携する現地NGO「THESO」のスタッフたちです。衛生支援の事業開始当初は、書類作成や会計作業にまだ不慣れだった彼らも、約2年間の連携を通じて大きく成長し、今ではPWJの事業のほかに国連機関の業務も請け負うなど、南スーダン全域で活動するようになりました。

グンボでのトイレの引き渡し時も、式典に参加した日本大使は「この学校にトイレができるることは本当に喜ばしいですが、あと2つ、喜ばしいことがあります。一つは、皆さん（地域の人々）が衛生普及活動に取り組み、実践していること。もう一つは、日本のNGOと南スーダンのNGOが一緒に活動を進めているということです」と述べ、PWJと現地の人たちとの協働を高く評価しました。



現地NGO「THESO」のスタッフら

「避難民の劇的な行動の変化を実感」

グンボ国内避難民キャンプ現地スタッフ
リチャード・ンゴタ

2年前にPWJが衛生支援を始めたから、国内避難民キャンプでは数々のポジティブな変化がありました。まずは、避難民がトイレを使うようになったことです。キャンプの開設当初、国内避難民はそこら中で用を足しており、公衆衛生は危機的状況にありました。



次に、避難民がゴミ出しをし、ゴミを一ヵ所に集めるようになったことです。キャンプ内がきれいになっただけでなく、蝇の数も減り、コレラや下痢などの感染症の予防にもつながりました。また、遠くの村から避難して来た頃はみな衛生知識がなく、衣服も身体も洗う習慣がありませんでしたが、衛生普及員の研修を受け、今では大人も子供もほぼ毎日水浴びをし、衣服を着替えています。活動を通して人々の劇的な行動の変化を実感でき、私自身も大変嬉しく思っています。

個人的には、南スーダンの失業率が深刻な中、PWJの事業を通して就業の機会を得たことにとても感謝しています。おかげで家族の生活を支えることができています。

緊急支援の現場から

大雨によって茨城県の鬼怒川の堤防が決壊し、大規模な洪水被害が発生したことを受け、PWJは9月10日、茨城県常総市に災害救助犬とレスキュー隊、水陸両用車を派遣しました。

救助犬の活動の機会はありませんでしたが、レスキュー隊員がゴムボートと水陸両用車で、100人以上の高齢者が孤立した老人福祉施設に物資と人を運搬したり、三井化学株式会社から無償で提供されたウレタンマットやブルーシートなどを支援物資集積場所に届けたりするなどの活動を行いました。また、洪水被害から約1週間が経った後もスタッフが常総市の避難所を回り、被災者のニーズを確認し、不足している生活物資などを直接届けました。

PWJは引き続き、大規模災害発生時に救助犬による捜索、レスキュー隊員による被災者救出、物資の緊急配布など、現場のニーズに応じて必要な支援活動を展開できるよう、備えます。



水陸両用車も人や物資の運搬に活用



支援物資を運ぶPWJスタッフら



避難所でニーズを聞き取るPWJ秋原

メディア
掲載報告

年末年始、大掃除シーズン！ご不要な

ものを支援にお役立てください



ご不要なハガキ・切手・CD等は
ありませんか？

書き損じの官製はがきや年賀はがきの残り、未使用の切手がございましたら、お送りください。少量でも古いものでも結構です。ハガキを交換して得た資金はPWJの支援活動に活用いたします。

【送り先】〒151-0063

東京都渋谷区富ヶ谷2-41-12 富ヶ谷小川ビル2階

ピースウィンズ・ジャパン東京事務所 ハガキ寄付係

（受領証が必要な方はその旨お書き添えください）

また、年末の大掃除で本やCDの処分をお考えでしたら

「ブックキフ」をご利用ください。無料集荷にて回収し、ブックオフが査定した金額がPWJへのご寄付となります。お申し込みはHP、もしくはお電話にてご連絡ください。

<http://peace-winds.org/support/book.html>

フリーダイヤル 0120-252-176

お家に眠っている「お宝」は
ありませんか？



お宝エイドは、ご自宅にあるものをお送りいただくことで、換金額をPWJにご寄付いただけるご支援の方法です。お売りいただけるものや送り先の詳細はHPをご覧ください。

※PWJに直接お送りいただくことはご遠慮ください。

- 9/4 山陽新聞の子ども新聞で救助犬・夢之丞紹介
- 9/17 河北新報で東北事業（ハレバレーのエコ平板講座）が紹介
- 10/16 NHK広島、中国新聞で災害救助犬セミナー（PWJ後援）と救助犬・夢之丞紹介
- 11/3～ スリランカ事業（広島県神石高原町におけるスリランカ人の農業研修）について中国新聞などで紹介
- 11/5 山陽新聞でPWJスタッフの出張授業が紹介
- 11/7～ ネパールでの家屋再建支援事業が現地紙「Himalayan Times」などで紹介

PWJの活動にご協力ください

※認定NPO法人のPWJに対するご寄付は、寄付金控除の対象となります。

【郵便振替】

口座番号：00160-3-179641

加入者名：特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン

※特定の地域・活動へのご支援の場合は、通信欄に国名等（東日本大震災の場合はその旨を）を明記してください。

【銀行口座】

●PWJの活動全般へのご寄付

銀行名：三井住友銀行 青山支店

口座番号：普通 1671932

口座名義：特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン広報口

●PWJの東日本震災支援へのご寄付

銀行名：三井住友銀行 桜新町支店

口座番号：普通 6723184

口座名義：特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン

※領収書が必要な場合などはご連絡ください。ご連絡をいたしかねないので、領収書を発行できません。